

## 救急医学講座

教授：小川 武希	救急初期診療，脳代謝・頭部外傷
助教授：小山 勉	救急初期診療，外傷・脊椎
助教授：大槻 穰治	救急初期診療，外傷外科，スポーツ救急
講師：卯津羅雅彦	救急初期診療，頭部外傷，集中治療
講師：武田 聡	救急初期診療，循環器疾患

### 研究概要

#### I. 救急医学講座の概略

本学では平成12年度より、本格的な救急体制が発足した。救急部はこれまでの中央診療部門から病院長直属の診療部として独立し、診療部門に位置付けられた。平成17年5月に、本学初の救急医学講座が発足した。平成18年には新たな医局員を迎え、教授1名、助教授2名、講師2名、助手2名、非常勤2名の編成となった。

本院は初期治療室7床と14床のオーバーナイトベッド、一般病棟3床、ICU2床を有している。初期救急から神経、循環器を中心とする3次救急の一部までを担っている。また、柏病院では15床の病室を持ち、地域中核病院として初期救急から3次救急までを担っている。本院、柏病院ともに、重症例を含むプライマリケアを中心とする地域のニーズに答える幅広い救急医療を展開している。

#### II. 教育

<学生教育>

① 講義。救急医学講座では6学年講義

ユニット：「救急医学」全体を担い、創傷学、外傷外科学、神経、中毒のユニットの一部を担っている。4学年ユニット「救急医学（中毒の治療）」および3学年ユニット「創傷学」の講義も担当している。

② 臨床実習。5年生の救急医学臨床実習

期間は1週間である。前半を本院、後半を柏病院で実施している。日勤、夜勤をマンツーマン方式で教育を行っている。

③ 選択実習。6年生の選択実習は1カ月である。本院、柏病院でそれぞれ3名ずつ受入れている。

<初期研修医教育>

本学の初期研修医は、スーパーローテート方式を採用していたため、厚生労働省の指導による新初期臨床研修制度の施行後も本質的に指導方式は変らな

い。救急部研修は全診療科の全面的なバックアップの元に専属医と研修医のOJT(on the job training)と屋根瓦方式によるマンツーマン方式で行われている。臨床実習では、医療情報の伝達能力、トリアージ、心肺脳蘇生法、チーム医療の教授に重点を置いている。また、定期的に症例検討会を開催し、各研修医がより深い理解を得られるよう、専属医が指導を行っている。

<教職員教育>

心肺蘇生教育の一環として、CPR教育委員会を設立し、教職員を対照に定期的に慈恵ICLSコース、慈恵BLSコースを主導開催している。また、公的機関へ向けての講義・講習の依頼も増え、これに対応している。

#### III. 研究

臨床例に基づく研究発表が中心。

全国規模の頭部外傷データバンク検討委員会（日本神経外傷学会）の主管幹事を担当しており、全国規模の重症頭部外傷の疫学的調査を継続して行っている。また、全国の治療標準となる「重症頭部外傷治療・管理のガイドライン」（日本神経外傷学会）改定版を平成19年3月に上梓し、この検証作業の準備を開始している。

厚労科研費研究事業である「脳血管障害の診断解析治療統合システムの開発」分担研究者を担当。班会議への出席や学内外での発表に参加している。

自動車技術会会員として、より安全な自動車技術開発について交通事故症例を元に検討する、インパクトバイオメカニクス専門委員会に出席している。

また、実践的な手術手技を若き外科医に伝えることを目的とした、外傷外科手術手技研究会（会長：亀田総合病院救命センター長 葛西 猛先生）の事務局を担当している。

救急医療のあり方に関する学際的な研究。本院は首都圏の中心に位置するため、救急医療においても地政学的な展開をする運営形態を模索している。大都市災害、スポーツ大会などのマスイベント、航空事故における災害対応への研究を行っている。

医療連携における救急医療のあり方に関する検討。救急部門は24時間継続的に稼動する病院機能の実働部分を担うと考え各医療機関との連携を図っている。都心部の大規模病院と合同で「救急診療を考える会」を設立している。また「救急」は医師における生涯教育の臨床現場としても有用であると考え医師会を中心に啓発活動を行っている。院内における救急体制（スタットコール体制）の整備を随時行っ

ている。

#### IV. 診療

全診療科の全面的な協力の元に初期救急から3次救急までを担う。柏病院では地域の3次救急医療施設の役割を担い、本院は特定機能病院としての高度なプライマリケアを主体とし、特に消化器、呼吸器、循環器、神経系、感染症の救急医療を中心に展開を試みている。

### 研究業績

#### I. 原著論文

- 1) 中村紀夫, 山浦 晶, 重森 稔, 小川武希, 徳富孝志, 小野純一, 川又達朗, 坂本哲也, 日本頭部外傷データベース検討委員会. 1998-2001年の日本神経外傷データベースプロジェクトの最終報告 外傷性脳損傷1002症例 (Final Report of the Japan Neurotrauma Data Bank Project 1998-2001: 1,002 Cases of Traumatic Brain Injury). *Neurol med-chir* 2006; 46(12): 567-74.
- 2) 安心院康彦 (静岡赤十字病院), 坂本哲也 (帝京大学), 卯津羅雅彦, 杉田 学 (順天堂大学練馬病院). 脳卒中初期診療トレーニング. *内科* 2006; 97(5): 865-71.
- 3) 松本孝嗣, 小川武希. リハビリテーション医が知っておくべき救急医療の動向. *J Clin Rehabil* 2006; 15(6): 546-51.
- 4) 片山 晃, 小川武希, 平沼浩一, 萩原栄一郎, 松本孝嗣. 反射性失神による外傷例の臨床的特徴. *日神救急会誌* 2006; 19: 21-4.
- 5) 卯津羅雅彦. 瘻竇. *プレホスピタル・ケア* 2006; 19(3): 68-9.
- 6) 小川武希, 徳富孝志 (久留米大学). 頭部外傷ガイドラインの検証. *脳神外ジャーナル* 2006; 15(7): 498-504.
- 7) 沢内 聡, 田屋圭介, 石井卓也, 大塚俊宏, 奥野憲司, 村上成之, 小川武希, 阿部俊昭. 急性硬膜下血腫治療のゴールデンタイム. *Neurosurg Emerg* 2006; 11(1): 59-63.
- 8) 卯津羅雅彦, 小川武希. 頭部外傷の疫学: データバンク. *救急医* 2006; 30(13): 1727-9.
- 9) 小野純一 (千葉県循環器病センター), 小川武希, 坂本哲也, 川又達朗, 徳富孝志, 片山容一, 重森 稔, 山浦 晶, 中村紀夫, 日本頭部外傷データベース検討委員会. 重症頭部外傷に対する急性期治療の現状: 頭部外傷データベースの分析から. *Neurosurg Emerg* 2006; 11(2): 133-40.
- 10) 卯津羅雅彦, 千川芳弘<sup>1)</sup>, 星 晶子<sup>1)</sup>, 橋本卓雄<sup>1)</sup>, 箕輪良行<sup>1)</sup>, 明石勝也<sup>1)</sup> (聖マリアンナ医大). 出血性脳梗

塞で発症した急性白血病の1例. *Neurosurg Emerg* 2006; 11(2): 206-9.

- 11) 沢内 聡, 村上成之, 小川武希, 阿部俊昭. 頭部外傷データベースにおける急性硬膜下血腫526例の検討—局所性およびびまん性脳損傷としての病態生理—. *Neurol Surg* 2007; 35(1): 43-51.
- 12) 狭間しのぶ, 宮城久仁子, 富士田恭子, 大橋一善, 小山 勉. 被災直後を想定した意識調査. *日救急医学会関東誌* 2006; 27: 218-9.
- 13) 徳富孝志<sup>1)</sup>, 小川武希, 重森 稔<sup>1)</sup> (久留米大学). 重症頭部外傷治療・管理のガイドラインに関する調査—現ガイドラインに準拠した治療は頭部外傷患者の予後に影響を与えたか?—. *脳神外ジャーナル* 2007; 16(1): 13-7.

#### III. 学会発表

- 1) 小川武希. 重症頭部外傷の治療・管理のガイドライン改訂版. 第26回日本脳神経外科コンgres総会. 東京, 5月.
- 2) 徳富孝志 (久留米大学), 小川武希. 現ガイドラインに準拠した治療は頭部外傷患者の予後に影響を与えたか? 第26回日本脳神経外科コンgres総会. 東京, 5月.
- 3) 卯津羅雅彦, 小川武希. 歩行者, 自転車の立場からみた重症頭部外傷の分析—頭部外傷データベースからの報告. 第42回日本交通科学協議会総会. 東京, 6月.
- 4) 平川公義 (東京医科歯科大), 山浦 晶 (千葉大), 中村 弘 (千葉県救急医療センター), 片山容一 (日大), 小川武希, 富田博樹 (武蔵野赤十字病院), 有賀 徹 (昭和), 河野守正<sup>1)</sup>, 岡 信男<sup>1)</sup> (千葉医療センター). 中村紀夫交通事故による高次脳機能障害の実態について. 第42回日本交通科学協議会総会. 東京, 6月.
- 5) 大塚敏宏, 菅 一成, 梶原一輝, 田中俊英, 沢内 聡, 沼本ロバート知彦, 大橋一善, 小山 勉, 村上成之. 高齢者自転車事故の危険性について—二輪車事故の実態調査から—. 第42回日本交通科学協議会総会. 東京, 6月.
- 6) 小川武希. 改訂「重症頭部外傷の管理治療のガイドライン」について. 第19回日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会. 富山, 6月.
- 7) 沢内 聡, 村上成之, 小川武希, 阿部俊昭. 頭部外傷データベース1002例における急性硬膜下血腫の検討: 局所性損傷, びまん性脳損傷としての病態生理. 第65回日本脳神経外科学会総会. 京都, 10月.
- 8) 卯津羅雅彦, 小川武希. 重症頭部外傷における急性硬膜外血腫例の検討: 頭部外傷データベースから. 第65回日本脳神経外科学会総会. 京都, 10月.
- 9) 武田 聡, 吉田裕志, 片山 晃, 平沼浩一, 卯津羅雅彦, 大槻稜治, 小川武希. カーディオモビ EV-50を

使用した発作性心房細動の診断と管理. 第34回日本救急医学会総会. 福岡, 10月.

- 10) 卯津羅雅彦, 小川武希. 重症頭部外傷におけるICPモニタリングの役割: 頭部外傷データバンクからの報告. 第34回日本救急医学会総会. 福岡, 10月.
- 11) 武田 聡, 笠井督雄, 片山 晃, 平沼浩一, 卯津羅雅彦, 大槻穰治, 小川武希. 院内救急におけるAEDを使用した早期除細動体制の検討. 第34回日本救急医学会総会. 福岡, 10月.
- 12) 大槻穰治, 武田 聡, 片山 晃, 平沼浩一, 卯津羅雅彦, 大橋一善, 小山 勉, 小川武希. 二次病院におけるER型救急医療への試み. 第34回日本救急医学会総会. 福岡, 10月.
- 13) 武田 聡, 松本孝嗣, 奥野憲司, 大橋一善, 鹿瀬陽一, 笠井督雄, 片山 晃, 卯津羅雅彦, 大槻穰治, 小山 勉, 小川武希. 慈恵医大におけるICLSコース開催の現状と問題点. 第34回日本救急医学会総会. 福岡, 10月.
- 14) 石橋敏寛, 村山雄一, 佐口隆之, 荏原正幸, 入江是明, 高尾洋之, 尾上尚志, 池内 聡, 小川武希, 阿部俊昭. 脳動脈瘤塞栓術後の長期成績と再治療率. 第22回日本脳神経血管内治療学会. 徳島, 11月.
- 15) 大瀧佑平, 大槻穰治, 卯津羅雅彦, 平沼浩一, 武田 聡, 大橋一善, 奥野憲司, 高木 聡, 吉田裕志, 大谷 圭, 小山 勉, 小川武希. 経眼窩的穿通性脳損傷の1例. 第11回日本頭部顔面外傷研究会. 東京, 11月.
- 16) 卯津羅雅彦. (ワークショップ)脳卒中初期診療における全身管理—シュミレーターを用いた実地訓練. 第25回日本蘇生学会. 浜松, 12月.
- 17) 大谷 圭, 三宅 亮, 大橋一善, 小山 勉. 当院における一年間の救急患者の実態. 第35回成医会柏支部例会. 千葉, 12月.
- 18) 沢内 聡, 村上成之, 小川武希, 阿部俊昭. 急性硬膜下血腫におけるPreventable Trauma Death: 頭部外傷データバンクの検討. 第12回日本脳神経外科救急学会. 東京, 1月.
- 19) 狭間しのぶ, 宮城久仁子, 富士田恭子, 大橋一善, 小山 勉. 被災直後を想定した意識調査. 第57回日本救急医学会関東地方会. 横浜, 2月.
- 20) 小川武希. 改定された頭部外傷ガイドラインについて. 第2回東葛地区救急カンファレンス. 千葉, 2月.
- 21) 大谷 圭, 三宅 亮, 大橋一善, 小山 勉. 当院で経験した重症多発外傷の一例. 第2回東葛地区救急カンファレンス. 千葉, 2月.
- 22) 奥野憲司, Marmorou A (Virginia Commonwealth Univ), 小川武希, 阿部俊昭. PKC activator および選択的V1a拮抗薬によるAquaporin-4チャンネルを介した抗細胞性浮腫効果. 第30回日本神経外傷学会. 仙台, 3月.
- 23) 卯津羅雅彦, 小川武希. 頭部外傷データバンクにお

ける重症頭部外傷小児例の検討. 第30回日本神経外傷学会. 仙台, 3月.

- 24) 沢内 聡, 村上成之, 小川武希, 阿部俊昭. 交通事故におけるアルコールおよび安全装置: 頭部外傷データバンク(プロジェクト2004)の検討. 第30回日本神経外傷学会. 仙台, 3月.
- 25) 村上成之, 大塚俊宏, 沢内 聡, 菅 一成, 梶原一輝, 田中俊英, 大橋一善, 小山 勉, 阿部俊昭. 高齢者自転車事故の危険性について. 第30回日本神経外傷学会. 仙台, 3月.
- 26) 沢内 聡, 村上成之, 小川武希, 阿部俊昭. 頭部外傷データバンクにおける急性硬膜下血腫とびまん性脳損傷の受傷機転の比較. 検討. 第30回日本神経外傷学会. 仙台, 3月.

#### IV. 著 書

- 1) 小川武希. どのような症例でtalk and deteriorateに気をつけるべきか? 片山容一, 川又達朗. 脳神経外科. 東京: 中外医学社, 2006. p.250-1.
- 2) 卯津羅雅彦. 突然の意識障害—応急処置と緊急検査. 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢総編集. 今日の治療指針: 私はこう治療している. 東京: 医学書院, 2007. p.5-6.
- 3) 大槻穰治. ボクシング ドクター編. 林光俊編集主幹. ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の診療. 東京: 南江堂, 2007. p.164-72.
- 4) 小川武希. 第1章 外科看護の基礎 E. 外傷. 青木照明, 小路美喜子編. 系統看護学講座別巻1: 臨床外科看護総論. 第9版. 東京: 医学書院, 2006. p.38-42.
- 5) 小川武希. 第4章 救急看護の実践 A. 救急処置法の実践. 青木照明, 小路美喜子編. 系統看護学講座別巻1: 臨床外科看護総論. 第9版. 東京: 医学書院, 2006. p.196-217.
- 6) 日本神経外傷学会編. 重症頭部外傷 治療・管理のガイドライン. 第2版. 東京: 医学書院, 2007.

#### V. その他

- 1) 小川武希. 神経外傷. 第23回脳神経外科専門医教育研修会プログラム. 東京, 6月.
- 2) 小川武希. 頭部外傷データバンクにおける高次脳機能の評価. 「交通事故による高次脳機能障害の実態調査」研究報告書. 京都, 6月.
- 3) 小川武希. (座長)頭部外傷. 第42回日本交通科学協議会総会. 東京, 6月.
- 4) 小川武希, 武田 聡. 職場におけるAEDによる救急法. 慈恵医師会産業医研修会. 東京, 7月.
- 5) 小川武希. ACS 救急部の立場から(追加発言). 慈恵医大生涯学習センター夏季セミナー. 東京, 8月.

- 6) 小川武希. 保健室における外科的・内科的な応急処置と対応について. 渋谷区中学校養護教諭研修会. 東京, 11月.
- 7) 小川武希. (公開サテライトシンポジウム司会)脳卒中治療における超音波の役割～経頭蓋超音波脳梗塞治療法を中心に～. 第9回日本栓子検出と治療学会. 京都, 11月.

## 内 視 鏡 科

教授: 田尻 久雄	消化器内視鏡診断・治療, 胆膵内視鏡診断と治療
助教授: 貝瀬 満	消化器内視鏡診断・治療, <i>H. pylori</i> ・消化管発癌の基礎的臨床的研究
講師: 角谷 宏	胆道内視鏡, 門脈圧亢進症の画像診断
講師: 加藤 智弘	消化器内視鏡診断・治療, Peyer's patch, 特にM細胞を中心とした消化管免疫機構
講師: 鈴木 武志	消化器内視鏡, 消化器癌・大腸腫瘍の診断及び治療, 赤外線内視鏡
講師: 松田 浩二	消化器内視鏡診断・治療, 特に超音波内視鏡・内視鏡データベース・教育システム・洗浄消毒

## 研 究 概 要

### I. 上部消化管および咽頭悪性疾患に関する研究

1. 胃食道悪性腫瘍の内視鏡診断に関する研究  
食道癌, 胃癌を早期に発見し正確な診断をすることは, 適切な治療を選択, 実行する上で重要である。従来の内視鏡診断に加え, 以下の新たな取り組みを行っている。

1) 狭帯域フィルター内視鏡 (Narrow Band Imaging: NBI) システムを併用した拡大内視鏡観察: 80倍の拡大観察に特殊な光源システムを併用したもので, 粘膜表層の微細模様や毛細血管を観察できる。生検によらない胃癌の組織型・深達度診断や病巣の進展範囲の診断, Barrett食道における癌の発生母地としての特殊円柱上皮の同定に関して検討し, それらの成果はすでに国内外の学会, 論文にて報告している。

2) 超音波内視鏡下穿刺, 吸引法: 食道, 胃の粘膜下腫瘍, 縦隔や腹部の腫大リンパ節など内視鏡では直視下に観察が不可能な病変に対し, 超音波画像で病変を確認しながら針を穿刺して細胞を直接採取し, 病変の組織診断をする超音波内視鏡下穿刺, 吸引法を行い, 安全性ならびに有用性を評価している。

3) 自家蛍光内視鏡 Auto fluorescence Imaging (AFI)

消化管粘膜から発生する自家蛍光を画像化する